



みどりを育む

横造協だより



発行 Vol.40
 一般社団法人 横浜市造園協会
 緑の諮問委員会
 横浜市中区尾上町1-6 VORT 横浜関内II 7階
 TEL 045-662-9897 FAX 045-664-5633
 http://www.yokohamashizen.or.jp

緑が生み出す横浜らしさを 横浜市環境創造局みどりアップ推進担当理事

橋本 健



はじめに

現計画のみどりアップ計画(2014~2018)は今年度が最終年になります。来年度からの緑の取組について、これまでも検討を進めてまいりましたが、先の第3回市会定例会で「横浜みどり税条例の一部

改正」の議案が可決され、横浜みどり税を5年間継続することが決まり、引き続きみどりアップ計画の事業を行うことができるようになりました。

ガーデンネットワーク 横浜の展開

昨年開催した第33回全国都市緑化よこはまフェアでは、600万人を超える方々に花や緑、まちの魅力を大いに楽しんでいただきました。これも市造園協会の方々の熱意と高い技術力の発揮の結果であると感謝しています。

次期みどりアップ計画(2019~2023)の主な特徴

これまで取り組んできた「横浜みどりアップ計画」は緑地保全制度による樹林地の保全や、地域での緑の創出が進むなどの成果があがっていることから、計画の理念や目標、基本的な枠組みや主な取り組みは継承

を重点的に推進
 ・樹林地の所有者の維持管理の負担軽減のための支援策の拡充
 ・老木化した桜並木など地域で愛されている並木の再生
 ・フェアの成果を継承し、都心臨海部や里山ガーデンで魅力的な空間づくりを進めるとともに、地域に根ざした各区の取り組みをみどりアップ計画で推進



・新しい花の名所づくりや地域の花の取組を推進
 ・「横浜ローズウィーク」の開催

などの取組を進めていきます。フェアで高まった関心を、市民・企業・団体など多くの方々の参画により、行動・活動へつなげていく

「横浜ローズウィーク」の開催

平成31年度春には新たなイベントとして「横浜ローズウィーク」を開催します。コアイベントとして新種のバラの発表や展示を行う「ばらフェスタ2019」を大磯橋ホールで予定しています。

また山下公園の「未来のバラ園」、港の見える丘公園の「イングリッシュローズの庭」「香りの庭」「ばらとカスケードの庭」や世界バラ会連合で優秀庭園賞を受賞した「横浜イングリッシュガーデン」など横浜が誇るバラ園を、港の風景や飲食を楽しみながら巡り歩くことができます。

ラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピック

ラグビーワールドカップ2019、 東京オリンピック・パラリンピック 2020の開催を契機に

横浜国際総合競技場(日産スタジアム)では、ラグビーワールドカップでは、決勝を含む7試合、東京オリンピック・パラリンピック2020のサッカー男子の決勝含む11試合、横浜スタジアムでは野球・ソフトボールの決勝戦を含め31試合が予定されています。

暑さ対策と 緑の機能

今年の夏はこれまでになく猛暑に見舞われ、日中街中を歩くのに街路樹の木陰をたどるような状況でした。様々な科学技術を駆使した対応も考えられます

が、まちの環境を改善できるのは結局「緑」ではないのかと改めてその緑の役割、必要性を痛感しました。さわやかな木陰を街や公園にしっかりと作っていく

災害の備えを共に

日本各地で豪雨、台風による被害が発生しています。横浜市においても備えをしておくことは重要です。

みどりアップ計画の取り組みでは既に約150haの樹林地を市有地にしました。災害に備える整備や維持管理を引き続き行うとともに、災害時の対応についても考えておかなければなりません。

緑への 期待の高まり

緑の持つ多面的な機能や役割が改めて評価されています。国際社会においても、2015年9月「持続可能な開発サミット」が開催され、持続可能な開発目標(SDGs)が掲げられました。緑が貢献できる分野は広くあります。

このような時代の変化に、これまでも柔軟に向き合ってきた公園緑地行政をさらに時代に合った取り組みに発展させていくことが求められていると考えます。引き続き市造園協会の会員の皆様とともに進んでいきたいと思っております。ご理解ご協力をお願いいたします。



昭和57年	横浜市入庁
平成13年	横浜動物の森公園整備課長
平成17年	指定管理者制度担当課長
平成18年	環境政策担当課長
平成23年	瀬谷土木事務所長
平成26年	公園緑地部長
平成29年	みどりアップ推進担当理事

里山ガーデンフェスタ実行委員会の立ち上げと今後の活動

里山ガーデンフェスタ実行委員会の設立



会長 上原 啓史

(公益財団法人横浜市緑の協会 理事長)

実行委員会の設立

横濱市は、平成29年3月25日から6月4日まで「第33回全国都市緑化よこはまフェア」(以下「よこはまフェア」という。)を開催しました。このよこはまフェアでは、愛称を「ガーデンネットワーク」として、「まち」「人」「とき」をつなぎ、大都市でありながら、市民生活の身近な場所に様々な緑の環境を有してきたことに磨きをかけ、よこはまフェアの成果を未来へと継承していくことを提唱しました。

よこはまフェアでは、みなとガーデンとともに、よこはま動物園ズーラシアの隣に新たに整備した里山ガーデンがメイン会場となり、訪れた多くのお客様に横濱の花で彩った市内最大級約10,000㎡の大花壇や谷戸の花々のほか、里山ならではの森の新しい体験も楽しんでいただきました。よこはまフェアでは全体で600万人、里山ガーデンでは33万人を超えるご来場数を数えました。また、その年の秋の大花壇公開では、1か月で約9万人のお客様にもご来場いただき、思い思いに花や緑を楽しんでいただきました。横濱という大都市にあつて里山の緑や季節の花々は、人々に憩いの時間、うるおいと季節感を生み出し、街なかと異なる魅力的な環境を創出するものとして貴重で大切な役割を果たします。



よこはまフェアで培われたこの緑の空間、環境を生かし、よこはまフェアの成果を今後継承していくため、里山ガーデンにおいて、花や緑による魅力の創出を継続し、来場者に花や緑を身近に感じていただく取組みを推進していくことで「美しい花と緑豊かなまち 横濱」を実現していく契機としていくことを目的に、横濱市、関係団体の皆さまと平成29年12月4日に里山ガーデンフェスタ実行委員会を設立いたしました。

公益財団法人横浜市緑の協会の関わり

公益財団法人横浜市緑の協会は、市内の公園・動物園の指定管理を行うとともに、緑化推進に積極的に取

2018年春の里山ガーデンフェスタ

この春「ガーデンシティ横濱」のリーディングプロジェクトとして、サクラ、チューリップ、バラなどで色鮮やかに彩られた山公園をはじめとする「みなと

昭和31年	鹿児島県生まれ
昭和56年	千葉大学園芸学部卒業
昭和57年	横浜市入庁
平成16年	独立行政法人都市再生機構 課長
平成24年	公益財団法人横浜市緑の協会 動物園部長
平成28年	環境創造局みどりアップ推進担当理事
平成29年	公益財団法人横浜市緑の協会 理事長

2018年秋の里山ガーデンフェスタと今後の展望

花々は、多くのお客様の目を惹きつけました。また、地元の旭、緑、瀬谷区やズーラシアと連携したイベントは、地域一体となった里山ガーデンの魅力さらさらに高めてくれました。

第41回通常総会を開催

5月23日ホテル横浜ガーデンにおいて第41回通常総会を開催。左記議案について審議し全て承認された。

- 《決議事項》
- 第1号議案 平成29年度事業報告(案)の件
- 第2号議案 平成29年度決算報告(案)の件
- 第3号議案 定款変更(案)の件
- 《報告事項》
- 第1号 平成30年度事業計画の件
- 第2号 平成30年度収支予算の件
- 第3号 就業規則変更の件

林横浜市長の祝辞

横浜市造園協会の皆様、本市は第41回通常総会ハマの緑を育むつどいの開催、誠にありがとうございます。皆様には市内の緑の育成と普及、更には市政全般に至るまで多大なご支援をいただいております。改めて厚く御礼申し上げます。

この春も皆様のお力添えによりまして、昨年の全国日までの公開期間中に15万人を超える方々が来場されました。秋の里山ガーデンに向けても準備を進めております。

また公園事業では、身近な公園の整備に加えまして、小柴貯油施設跡地の公園など大規模な公園の整備を継続して進めております。旧深谷通信所、旧上瀬谷通信施設の土地利用についても引き続き検討を進めており、旧上瀬谷通信施設への国際園芸博覧会の招致につきま

結びに横浜市造園協会の皆さまのご発展と、本日ご列席の皆様のご健康ご活躍をご祈念申し上げます。お祝いのお言葉とさせていただきます。(小林副市長代読)



副市長・小林一美様

また今後横濱市内では、

また今後横濱市内では、

また今後横濱市内では、

樹木に魅せられて (第35回)

樹林を残す「力」

横浜市環境創造局 政策調整部
技術監理課 担当課長

田畑 有紀子

序 「この樹林はなぜ残っているのか？」

「この樹林は、なぜ住宅開発されずに残っているのか？」実家から見える林に感じたこの疑問が、自分の原点です。公園とお社がある美しい斜面樹林は、薄い木が林立する美しい姿で残り続けていました。この樹林が残り続けているのは何かの「力」が働いていると感じ、私も樹林を残す何かの「力」になりたい。そんな思いがきっかけで、造園の世界に入りました。

1 アイデアを活かして 実現する造園業

造園業の方々と初めて仕事をしたのは、平成15年に異動した中部公園緑地事務所施設係の時です。当時は、樹木医の意見を取り入れた維持管理や大がかりな施設修繕など、難しい案件が起きると、よく現地で相談させていただきました。その際に感じたのが、造園業の方々のアイデアの豊かさ



「この樹林は、なぜ住宅開発されずに残っているのか？」実家から見える林に感じたこの疑問が、自分の原点です。公園とお社がある美しい斜面樹林は、薄い木が林立する美しい姿で残り続けていました。この樹林が残り続けているのは何かの「力」が働いていると感じ、私も樹林を残す何かの「力」になりたい。そんな思いがきっかけで、造園の世界に入りました。

2 「つじしたい」 発想を支える実力

27年度には公園緑地整備課の担当係長として、港の見える丘公園のローズガーデンと沈床花壇の緑化工事



の育成管理が徹底されたことで、全国都市緑化よこはまフェアでは全国からのお客様に、夢描



かれた庭園が現実となった姿をご覧いただくことができました。

3 伝統から新技術まで 広がる期待

29年度から技術監理課担当課長として、造園業の方々と共に技術を高めよう技術交流会等の機会をいただいています。造園に求められる技術分野が、ますます多彩に幅広くなってきたことを感じています。

伝統的な庭園技術の継承や、樹林地の育成管理、Construction など新技術への対応。横浜の造園を支える造園業の皆様と市役所が共に技術向上を目指して、更なる技術の継承・開発をすることが期待されています。

結 「この樹林」が 残っていた理由

原点である樹林地が、なぜ残っているか。風致地区指定と都市公園という保全の網がかかっていること、国有地であり一般住宅化の見通しが無いこと等の理由が後にわかりましたが、それにも増して、技術の高い造園関連の方々やハードソフト両面で支えているから、斜面樹林を健全に維持管理できるのだろうと思います。

全ての技術は、誰かの大切な公園緑地を次世代まで引き継ぐことに繋がります。今後も、造園業の皆様と共に、造園技術を学び育んでいきたいと思っています。

労働安全衛生大会を開催

7月9日ホテル横浜ガーデンにおいて「平成30年度労働安全衛生大会」を開催した。

横浜南労働基準監督署長 古屋強様、横浜市環境創造局 みどりアップ推進担当理事 橋本健様、横浜市財政局公共施設・事業調整室長 高木勇一様、横浜

道路局 道路部長 中村信治様、はじめ各局幹部および各区土木事務所長の方々をご来賓にお迎えした。

本年度も労働災害ゼロを目標として、安全標語入選者表彰(標語応募総数249)・安全宣言を行い、古屋労働基準監督署長による「平成30年度全国安全週間にあたり」についてのご



講演をいただいた。また(株)健康Life体操 S&S インストラクター 有賀 暁子様を講師に迎え、「頭と体スッキリ!快適な毎日のためのストレッチ体操」と題して脚・腰を鍛えるストレッチ体操のご講演をいただいた。

委託安全パトロールを実施

実施日 7月27日

実施案件

公園維持業務委託(都筑区) 街路樹維持業務委託(青葉区・栄区・金沢区)

実施結果

優良事項

- ・ 強風対策として、業務看板等にウエイトを付けていた。
- ・ 熱中症・蜂刺され対策グッズを携帯していた。
- ・ ゴーグルを着用していた。

軽微な指摘事項

- ・ 作業車の輪止めが不十分であった。
- ・ (平地・傾斜地を含む) 携行缶の不備が一部に見られた。
- ・ 歩行者通路が確保されていない。
- ・ (カラーコーンがまだ有るのに使用されていない)
- ・ 消火設備に不備があった。(消火器の使用期限切れ)

瀬谷道路まつり2018に出展協力

8月24日、相鉄線瀬谷駅北口広場に於いて恒例の瀬谷土木事務所主催「瀬谷道路祭り2018」に当協会瀬谷区の会員6社が出展協力をした。

花の種・はまっ子ユーキ・よこはま動物園ズーラシアうちわ等の無料配布をした。当日は台風の影響により規模を縮小しての開催



入選標語

最優秀賞

危険の芽 気付いたその場で即対応

みんなで守る 職場の安全

日光緑化建設(株) 藤原浩二

優秀賞

何か違う?

いつもと違うはずを確認

慣れた作業に潜むミス

基本に戻って安全作業

小島造園(株) 富田幹雄

安全は、

意識と努力の積み重ね、

急がず焦らず確実に

田口園芸(株) 早坂尚生

力を合わせて作り出す

ゼロ現場は社員の誇り

創意工夫の努力が実る

みんなで築く安全管理

(株)田澤園 荒木由美子

一人一人がルールを守り、

初心に戻って安全作業、

めざせ安心ゼロ災害

一造園土木(株) 河合龍也

総評

・ 作業責任者の一時不在時の体制について
発注者打合せなど、作業責任者が現場を離れる際には、必ず代理責任者を配置し、緊急時連絡体制を確保する。

・ 輪止めの設置について
塵芥車など作業車には、作業時・停車時・平地・傾斜地に係らず輪止めを設置し、安全管理の一環とし、事故防止に努める。

・ 作業機械などの燃料(ガソリン・混合油)の取り扱いについて
灯油用容器・ペットボトルなどには入れずに、必ず携行缶を使用する。

平成30年度「ひろげよう 育てよう 緑の都市」全国大会 国土交通省都市整備局長賞を受賞



平成30年度「ひろげよう 育てよう 緑の都市」全国大会において、横浜公園日本庭園「彼我庭園」(横浜 市環境創造局・当協会・(株) 港南植木ガーデン)が国土交通省都市局長賞を受賞した。これは、当協会と横浜市が協定を結び、公民連携事業として実施した講習会

横浜市造園技術交流会

造園技術伝承研修会を開催

3月24日から開催された「ガーデンネットワークス横浜2018」の開催地の一つである横浜公園内「彼我庭園」において、自然石の石張り及び竹垣の補修を研修形式で行った。日本古来の作庭技術の伝承及び若手技術者の教育に貢献することを目的として横浜市と協定を結び開催した。



自然石乱張り

形式による竹垣改修の取り組みによるものである。庭園に市の歴史や文化を反映した門や雪見灯籠などの施設を整備するとともに、日本の伝統的な造園技術である竹垣の改修の技術交流会を公開で行い、大勢の来園者に日本の伝統技法や造園技術を披露・周知を行った事が評価された。



横浜公園は2020年の東京五輪の会場となっており、国内のみならず海外からも多数の来園者が見込まれることから、今後、本取組によって更なる魅力が向上した彼我庭園を通じて日本の伝統や文化、海外との交流の歴史を振り返る契機となる事が期待される。

第35回全国都市緑化やまぐちフェアに花壇を出展



9月14日〜11月4日まで、第35回全国都市緑化やまぐちフェアが、山口きらら博記念公園で開催された。当協会は横浜市と協定を結び花壇の作成を行った。デザインを会員から募集し審査の結果(株)田澤園の図案を採用し、施工は(二社)日本造園建設業協会山口県支部に依頼した。

公園施設見学研修会を開く

①ふなばしアンデルセン公園
多くの来園者数(年間90万人)と高いリーピート率を誇る当公園は、平成19年全国都市緑化フェアの開催跡地である。緑化フェア閉幕以降の、会場の有効利用や管理運営面において、成功例の見学という観点から訪れる。

②コマツオートセンター東京
現在、建設業界が直面している諸課題(熟練労働者不足、生産性向上、品質確保、安全性向上など)に対応する、情報化施工(ICT施工技術)の普及に対し、講義や体験を通し理解を深める。



実施内容
ふなばしアンデルセン公園
・ボランテアガイドによる園内案内
・緑化フェア閉幕直後の回顧及び現在の集客に至るまでの経過
・管理運営面の工夫
コマツオートセンター東京
【単独(貸切)セミナー】
・ICT建機のデモンストラクション見学
・ドローン(無人ヘリ)の現況測量見学
・ICT建機の試乗



よこはま花と緑の春のフェア運営委員会に協賛し当協会員に出席をお願いしている、よこはま花と緑の春のフェアが開催された。
期間 4月13日〜5月6日
会場 象の鼻パーク



(株)滝川園「メルヘンロード」

■コンクール結果■
横浜市長賞・市民賞 (株)滝川園「メルヘンロード」
横浜市会議長賞 (有)ウイス テリアグリーン「春の贈り物」
横浜市環境創造局長賞 横浜植木(株)「春、溢れる」
(公財)横浜市緑の協合理事長賞 (株)植勘「復興の兆し」
神奈川新聞社賞 三和造園 土木(株)「春の散歩道」
みどりアップ奨励賞 (株)春峰園「輪廻」

〈出展協力社〉受賞者を除く
(株)港薬品造園・横浜農業協同組合・相武造園土木(株)・(有)福岡造園・(株)新正園・(株)栗飯原勉氏(6月18日)享年72
(株)濱田園
代表取締役社長
長年にわたり、理事としてご尽力いただきました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

新入会員

会社名 二代産業(株)
代表者 代表取締役 齋田裕貴
所在地 保土ヶ谷区川島町 1498-10
入会日 8月1日
造園について学ぶ。
・ブース内に設置した坪庭で日本庭園を実際に肌で感じてもらう。
・ヒノキの枘に砂利や置石、苔を配置し、箱の中に小さな日本庭園を作成した。
・実物の竹を手にとり、素材や香りを体験してもらった。



子供たちに造園の仕事の魅力を伝え、また、来場者に横浜市造園協会のPRを行った。
日程 4月20日〜22日
会場 パシフィコ横浜A・Bホール
参加対象者 幼稚園児、小学生、中学生
参加人数 118名
内容
・作業着と帽子を着用し
・ブース内に設置した坪庭で日本庭園を実際に肌で感じてもらう。
・ヒノキの枘に砂利や置石、苔を配置し、箱の中に小さな日本庭園を作成した。
・実物の竹を手にとり、素材や香りを体験してもらった。



2018日本フラワー&ガーデンショウに協賛
(公社)日本家庭園芸普及協会が主催する、2018日本フラワー&ガーデンショウにおいて子供向け職業体験イベント「花と緑の職業体験」で、「造園やさん」コーナーを出展した。

よこはま花と緑の春のフェア
2018「花壇展」
協会が主催する、2018日本フラワー&ガーデンショウにおいて子供向け職業体験イベント「花と緑の職業体験」で、「造園やさん」コーナーを出展した。